

進路指導室から 第400号

はじめに

11月も下旬に入りました。朝夕は10℃を下回る日が増え、人々の装いが、いつの間にか冬のものに替わっています。先日、ある若い先生が、大阪の高校を視察した際の感想を話してくれました。視察を通して、たくさんの刺激を受けたようです。若い力は、基町高校を変えていく大きな力になります。

「令和7年度大学入学共通テストに係る出題の方向性と試作問題」について

現高校1年生が受験する「令和7年度大学入学共通テスト」は新しい学習指導要領にもとづいて行われるため大きく制度が変わります。

【参考：「令和7年度大学入学共通テスト」の出題科目】

教科	グループ	出題科目	試験時間
国語		「国語」	90分
地理歴史		「地理総合, 地理探究」「歴史総合, 日本史探究」 「歴史総合, 世界史探究」「地理総合, 歴史総合, 公共」	1科目選択60分 2科目選択130分（うち解答時間120分）
公民		「公共, 倫理」「公共, 政治・経済」 「地理総合, 歴史総合, 公共」（再掲）	
数学	①	「数学Ⅰ, 数学A」「数学Ⅰ」	70分
数学	②	「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」	70分
理科		「物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	1科目選択60分 2科目選択130分（うち解答時間120分）
外国語		「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」 ※ 英語については、ICプレーヤーを使用する試験も実施	80分 【ICプレーヤーを使用する試験】 60分（うち解答時間30分）
情報		「情報Ⅰ」	60分

※ 「国語」については、「現在測定している内容を維持した上で多様な文章を提示する」（思考力を測るための問題の分量を増やす）予定で、試験時間は現行の大学入学共通テストより10分延長

※ 「数学②」については、現行の大学入学共通テストより10分延長で、現行の数学①と時間を統一

※ 「情報」については、60分で実施

さて、大学入試センターは11月9日（水）に、「令和7年度大学入学共通テストに係る出題の方向性と試作問題」について公表しました。以下は、ベネッセ教育情報サイトに掲載されていた記事を参考に、各学年のポイントについてまとめています。

■ 高校1年生の注目ポイント

どの科目もまだ学習途中、または学習していない科目ばかりなので、解けないことを前提に、試作問題の出題形式について確認してください。

<地理歴史・公民>

教科登録が終わりましたが、選択しようと考えている科目や現在履修している科目について、試作問題を見ておきましょう。共通テストでは、「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合, 歴史総合, 公共（から2つを選択解答）」の6つの科目がそれぞれ100点満点で出題され、受験する大学の指定により、この中から1つまたは2つを受験することになります。

試作問題を見る際には、高校入試や定期考査の問題と次のような観点で比べて、今後、どういうことに気をつけて勉強していくのがよいか考えてください。

- 問題文の長さ（設問の前に書かれている説明文や選択肢を含む）
- 選択肢の形式（用語や年代を問う選択肢なのか、意味や解釈等を文章で問う選択肢なのか）

もし、「覚えることが地理歴史・公民の勉強法だ」という先入観をもってしまっているとしたら、そこに「読んで覚えることも地理歴史・公民の勉強法だ」ということを加えることをおすすめします。

<数学>

大学入学共通テストの数学には、数学①、数学②の2つの実施時間枠があります。

数学①では、『数学Ⅰ』と『数学Ⅰ, 数学A』の2つが、数学②では『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』が出題され、受験す

る大学の指定により必要な科目が決まります。

内容としては、地理歴史・公民同様、まだ今は解けなくてもよいということを前提に、問題文の長さや内容に注目してください。

問題文が長いものは、具体的なできごとなどを数式に表すことができる力が必要になることが多く、与えられた数式を解いたり、公式を当てはめたりする力とは別の力が求められることがあります。文章読解力はどの教科にも必要であるということを理解して勉強に取り組んでください。

<情報>

情報は、過去問のない新たな出題科目なので、試作問題の存在はとても貴重です。

基本的には教科書で学習したことを中心に出題されます。本校では高校2年生で「情報Ⅰ」を履修しますので、来年度、ある程度勉強が進んでから確認することを忘れないようにしましょう。併せて、同じ大学入試センターのページの中にある、令和3年3月24日に出されたサンプル問題も見てください。

■ 高校2年生の注目ポイント

主として現高校1年生が受験する令和7年度入試では、多くの国立大学において、大学入学共通テストの『情報』の受験が必須になります。現高校1年生は「情報Ⅰ」という科目を勉強しますが、現高校2年生以上は、「情報の科学」という科目を選択して勉強しています。「情報Ⅰ」とは内容が異なりますので、大学入学共通テストでは経過措置の科目として『旧情報（仮）』が出題されます。

高校2年生以上の生徒にとっては『旧情報（仮）』を受験しなくて済むのに越したことはありませんが、「もしも」のことを考えておくことも大切です。今回公表された『旧情報（仮）』の試作問題の難易度は定期考査の問題と比べてどうなのか、もしも高校卒業後にあらためて『旧情報（仮）』の受験勉強を始めるとしたら、その負荷がどの程度であるか、推し測っておいてください。

入試制度や出題方針などが変わると不安になりますが、過度に心配する必要はありません。日々、目の前のやるべきことをきちんとこなしていくことが大切です。日々の学習に加えて「この問題が解けるようになるには、自分としてどういう勉強をしていくことが必要か」ということを考え、実行することが効果的な学習につながります。

「東京工業大学 女子枠の創設」について

東京工業大学は11月10日（木）に、2025年度までに学校推薦型選抜と総合型選抜で計143人の「女子枠」を創設する入試改革を公表しました。東京工業大学の総募集人数の14%を占める異例の規模で、現在は13%に低迷する学士課程（学部）の女子学生比率を20%以上に高めることを狙いとしています。

女子枠は東工大の全6学院（学部に対応）で導入します。2024年度入試では、物質理工や生命理工など4学院で計58人、2025年度は理学院と工学院で計85人の女子枠を新設します。総募集人数（計1028人）は変更せず、一般選抜枠を930人（2023年度）から801人（2025年度）に減らします。また、女子枠は、この増枠された学校推薦型選抜と総合型選抜の枠組みの中で創設されます。なお、男女を問わない既存の総合型選抜・学校推薦型選抜の枠組み人数（一般枠）は工学院以外では維持または増枠となっています。一般枠と女子枠は併願が可能で、両方合格であれば女子枠としての合格となります。

「第4回保護者対象進路研修会」について（再掲）

以下にて、「第4回保護者対象進路研修会」を行います。

日 時	: 令和4年12月3日（土）	14:00~15:30
場 所	: 本校視聴覚教室	
内 容	: 「2023年度入試について」	
講 師	: 駿台予備学校 広島校 講師（予定）	

11月22日（火）から進路指導室前に申込用紙を用意していますので、必要事項をご記入の上、お子様を通じて進路指導室部にご提出ください。2023年度入試の最新情報を提供したいと考えています。新型コロナウイルス感染症の拡大が気になりますが、是非、多くの保護者の参加をお願いしたいと思っています。

終わりに

先日、山口県で行われた競技かるたの中国地区大会に参加しました。大会当日は、山口県の先生方には良くしていただきました。また、元クイーンの今村美智子さん、そして永世クイーンの久保久美子さんに声をかけていただくなど、部員たちにとっては得難い経験であったと思っています。